



陶磁器

土から生まれる、日本のうつわ



この教材の使い方

1

見て・ふれて・感じる

写真や実物、動画でも確かめてみましょう。身近な行事や食べ物の中にも、日本文化はたくさんあります。

2

「なぜ？」を考える

行事やしきたりには、それぞれ意味や願いがこめられています。由来を知ると、ぐっと面白くなります。

3

「やってみよう」で体験する

答えは30ページにあります。家族や地域の人に話を聞くのもおすすめです。地域によるちがいも楽しみましょう。



Ken (ケン)

日本の中学生。地元のお祭りが大好き。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。日本文化を勉強中。

もくじ

やきものの入り口	3～5
やきものの歴史と産地	6～9
つくり方をのぞく	10～13
暮らしと心	14～15
もっと味わう	16～21
マナーとふくしゅう	22～24
ふり返り	25～30

陶磁器ってなに？

陶磁器がどんなものか知ろう。

陶磁器（とうじき）とは、土や石の粉を練って形をつくり、高い温度で焼き固めたうつわや道具のことです。「やきもの」ともよばれます。

茶わんやお皿、湯のみ、花びんなど、わたしたちの暮らしのすぐそばに、たくさんのやきものがあります。



こんなところにも陶磁器

ご飯茶わん

湯のみ

お皿

花びん

置物

洗面ボウル

毎日使う食器から、美術館にかざられる作品まで、陶磁器の世界はとても広いです。

ポイント

- 陶磁器は、土や石という自然の材料からつくられています。
- 同じ形でも、焼き方や土によって、色や手ざわりが変わります。
- 日本各地に、その土地の土を生かした産地があります。

やってみよう

1. 家の中にある陶磁器を3つさがして、書いてみよう。

2. その中でいちばん気に入っているものと、その理由を書こう。

ワンポイント 同じ「やきもの」でも、土からつくる陶器と、石の粉からつくる磁器があります。ちがいは次のページで学びます。

書いて覚えよう

陶器と磁器のちがい

陶器と磁器、それぞれの特徴を知ろう。

陶器

とうき／pottery

土(陶土)を焼いてつくるやきもの

益子焼などが陶器の仲間です

磁器

じき／porcelain

岩石の粉(陶石)を焼いてつくるやきもの

有田焼などが磁器の仲間です

陶器

土からつくる

ざらっとした手ざわり

土のあたたかみが残る

厚みがあることが多い

割れにくく、育てて使える

磁器

石の粉からつくる

つるっとした手ざわり

ガラスのような質感

薄くて軽いことが多い

たたくと高くすんだ音がする

ポイント

- 陶器と磁器は、原料も焼く温度もちがいます。
- どちらが良いというものではなく、それぞれに合った使い方があります。

やってみよう

1. 家にある器を1つえらび、さわった感じをメモしよう。

2. そっと指ではじいて、音を聞いてみよう。どんな音がしましたか。

書いて覚えよう

やきものの歴史

やきものが、どのように発展してきたか知ろう。



縄文時代

じょうもん時代

なわ目の模様をつけた土器がつくられていました。

はじまり



鎌倉～室町時代

かまくら～むろまち時代

各地で窯が開かれ、じょうぶな陶器が広まりました。

発展



江戸時代

えど時代

有田(佐賀県)で、日本ではじめての磁器がつくられました。

磁器の誕生

ポイント

- やきものの歴史は、土器の時代からとても長く続いています。
- 江戸時代につくられた磁器は、海をこえて外国にも運ばれ、人気を集めたといわれています。

やってみよう

1. 縄文土器の写真を見て、どんな模様がついているか書こう。
2. 自分の家にある一番古そうなやきものをさがしてみよう。

書いて覚えよう

縄文土器と日本の六古窯

日本のやきものの原点と、歴史ある産地を知ろう。

縄文土器

縄文時代につくられた土器は、なわをおしつけたような模様が特徴です。
食べ物を煮たり、たくわえたりするために使われていたと考えられています。

日本の六古窯（ろっこよう）

中世から今まで、焼き続けられている代表的な6つの産地を「六古窯」とよびます。

瀬戸

常滑

越前

信楽

丹波

備前

地域によって、土の質や焼き方にちがいがります。

ポイント

- 六古窯は、長い歴史をもつ産地として大切にされています。
- つくられる器の色や形には、その土地の土や焼き方が表れます。

やってみよう

- 六古窯のうち、知っている場所はありますか。 _____
- 地図で6つの産地の場所をさがしてみよう。

書いて覚えよう

有田焼・九谷焼

佐賀と石川、それぞれの磁器の特徴を知ろう。

有田焼（佐賀県）

白い磁肌

白く美しい生地

染付・色絵

青や赤であざやかにえがく

九谷焼（石川県）

五彩手

赤・緑・黄・紫・紺の5色

大胆な絵つけ

絵画のような華やかさ

ポイント

- 有田焼は、日本ではじめての磁器の産地として知られています。
- 九谷焼は、色あざやかな絵つけが大きな魅力です。

やってみよう

- 有田焼と九谷焼、それぞれの写真を見て、色のちがいを書こう。

ワンポイント 有田焼は、積み出し港の名前から「伊万里焼」ともよばれることがあります。

書いて覚えよう

備前焼・信楽焼

釉薬を使わない、素朴な焼きものを知ろう。

備前焼（岡山県）

釉薬を使わない

土と炎だけで焼き上げる

土と炎の模様

焼くたびにちがう表情になる

信楽焼（滋賀県）

あたたかみのある色

土にふくまれる鉄分の色

たぬきの置物

縁起物として親しまれる

ポイント

- 備前焼と信楽焼は、どちらも釉薬をかけずに焼く「焼き締め」という方法でつくられます。
- 同じ土でも、窯の中の置き場所によって焼き色が変わります。

やってみよう

1. 備前焼か信楽焼の写真を見て、どんな模様が出ているか書こう。

書いて覚えよう

美濃焼・萩焼

岐阜と山口、それぞれのやきものの魅力を知ろう。

美濃焼（岐阜県）

多くの様式

志野・織部などさまざまな様式

日常づかいの器

全国でよく使われている

萩焼（山口県）

やわらかい風合い

土の質による吸水性

茶の湯の器

茶道で古くから愛用

ポイント

- 美濃焼は、日本の食器の中でもとても多くつくられている産地の一つといわれています。
- 萩焼は、使ううちに色や風合いが変わっていくことも楽しみのひとつとされています。

やってみよう

- 美濃焼と萩焼、気になったほうを1つ選び、理由を書こう。

ワンポイント 「萩の七化け」という言葉があり、使うほど色合いが変わっていくといわれています。

書いて覚えよう



ろくろと釉薬

形をつくる道具と、色やつやを生む薬を知ろう。

ろくろ

potter's wheel (ポッターズ ホイール)

台を回しながら土で形をつくる道具

油薬 (ゆうやく)

glaze (グレーズ)

器の表面にかける薬。色やつやを出す

ポイント

- ろくろを使うと、丸い形を早く、きれいにつくることができます。
- 釉薬は焼く前に器の表面にかけて使い、焼くとガラスのような膜になります。
- 同じ釉薬でも、焼き方によって色の出方が変わります。

やってみよう

1. ねんどで、ろくろを使わずに器の形をつくってみよう。
2. 身近な器を見て、表面がつるつるかざらざらか調べてみよう。

ワンポイント 陶芸教室の中には、実際にろくろを回して器づくりを体験できるところもあります。

書いて覚えよう

窯と焼成

器を仕上げる「焼く」工程を知ろう。

窯（かま）ってなに

窯とは、やきものを高い温度で焼くための設備です。むかしは山の斜面を利用した「のぼり窯」が使われていました。

現在は、ガスや電気を使う窯もよく使われています。

ポイント

- 焼く温度は、種類によって数百度から千数百度ほどまで、はば広くあります。
- 焼いている間に、土や釉薬が変化して、かたく丈夫な器になります。
- 窯の中の場所によって炎の当たり方がちがい、焼き色が変わることがあります。

やってみよう

1. 台所のオーブンと、やきものの窯とでは、温度がどれくらいちがうと思いますか。予想を書こう。

ワンポイント 窯の火は非常に高温になるため、窯だき体験をするときは、必ず係の人の説明にしたがいましょう。

書いて覚えよう

器の形と使い分け

形や大きさによる、器の使い分けを知ろう。

器の種類	形の特徴	よく使われる場面
茶わん	丸くて手のひらにおさまる	ご飯を盛る
どんぶり	深くて大きい	めん類やどんぶり物
小皿	浅くて小さい	しょうゆや薬味を入れる
湯のみ	円筒形で持ちやすい	お茶を飲む

ポイント

- 形が深いか浅いかで、盛りつけられる料理が変わります。
- 大きさや高さで、持ちやすさや使いやすさが工夫されています。

やってみよう

1. 家にある器を2つ選び、どんな場面で使うか書こう。

書いて覚えよう

- 使い終わったら、やわらかいスポンジで、こすりすぎずに洗いましょう。
- 金や銀の絵つけがある器は、電子レンジや食器洗い機に向かないことがあります。
- 欠けたり割れたりした器を、漆や金でつなぐ「金継ぎ」という直し方もあります。

熱いものを入れた器や、割れた器をあつかうときは、やけどやけがをしないよう、大人といっしょに気を付けましょう。

1. 家にある器の中で、大切に使いたいものを1つ選び、理由を書こう。

ワンポイント 割れても直して使うという考え方には、ものを大切にする気持ちがこめられています。

書いて覚えよう

ひもや玉を使って手で形をつくる

回る台の上で形をととのえる

焼く前や焼いた後に模様をえがく

職人さんの作業を見せてもらう

小さな置物や箸置きをつくる

焼き上がりまで数週間かかることも

- 陶芸教室や体験施設では、はじめての人向けの体験が用意されていることが多いです。
- 作品が焼き上がるまでには、乾燥や焼成の時間が必要です。

1. 近くに陶芸体験ができる場所がないか、家族と調べてみよう。

色、形、厚み、模様など、いろいろな角度から観察してみましょう。

重さ

- 美術館や資料館では、貴重なやきものを間近で見ることができます。
- 展示では、写真だけでは分からない大きさや重さを感じられます。

1. 近くの美術館や資料館で、陶磁器の展示があるか調べてみよう。
2. 写真を1枚見て、気づいたことを3つ書こう。

体験してみよう

身近な材料で、やきものの気分を体験しよう。

ねんどで器をつくろう

- ① ねんどを丸めて、玉にする。② 親指で真ん中をおして、へこませる。③ ふちを少しずつ広げて、器の形にととのえる。

ポイント

- 本物のやきものと同じように、乾かす時間が必要です。
- 色をぬるときは、乾いてからのほうがきれいに仕上がります。

ワンポイント オープンや窯を使う作業は、必ず大人といっしょに行いましょう。

書いて覚えよう

石の粉から焼くやきもの

釉薬をかけずに焼く方法

- 言葉の意味を知っていると、お店や美術館でやきものを見るときに、より楽しめます。

1. この教材で覚えた言葉を、家族に1つ説明してみよう。

18

地域によるちがい

産地によって、やきものの個性がちがうことを知ろう。

産地	都道府県	特徴
有田焼	佐賀県	白磁に色あざやかな絵つけ
信楽焼	滋賀県	あたたかみのある焼き締め
美濃焼	岐阜県	様式が多く日常づかいが多い

ポイント

- 同じ日本の中でも、土や気候、伝わってきた技術によって、やきものの個性が大きく変わります。
- 地域によっては、複数の産地の特徴を合わせた新しい作品もつくられています。

やってみよう

1. 自分の住んでいる地域や近くの都道府県に、やきものの産地がないか調べてみよう。

書いて覚えよう

昔と今をくらべよう

時代とともに変わったこと、変わらないことを考えよう。

昔

手作業が中心

すべて手びねりや足で回すくる

時間も手間もかかる

のぼり窯でまきを使って焼く

天候や火加減に左右される

今

道具も活用

電動ろくろや機械成形も使われる

効率よく形をつくれる

ガスや電気の窯も使われる

温度の管理がしやすい

ポイント

- 道具は変わっても、土をこね、形をととのえ、焼き上げるという基本の流れは今も同じです。
- 伝統的な技術を大切に守りながら、新しい道具を取り入れている産地もあります。

やってみよう

1. 昔と今で、いちばん大きく変わったと思うところはどこですか。

書いて覚えよう

よくある疑問

陶磁器について、よくある疑問に答えよう。

疑問	こたえ
電子レンジで使える？	器によります。金・銀の絵つけがあるものは向きません。
なぜ値段に差がある？	手間や技術、産地によって変わることがあります。
割れたらどうする？	金継ぎなど、直して使う方法もあります。

ポイント

- 疑問に思ったら、お店の人や職人さんに聞いてみるのもよい方法です。

やってみよう

- 自分が陶磁器について疑問に思うことを1つ書こう。

書いて覚えよう

- 両手でそっと持ち、落とさないように気をつけましょう。
- 熱いものが入った器は、やけどに注意しましょう。
- 割れた器のかけらは鋭いことがあるので、片づけるときは大人にまかせましょう。

美術館などで展示品を見るときは、さわらずに目で楽しみましょう。ガラスケースに入っているものも多くあります。

1. 家で器を運ぶとき、気をつけていることを書こう。

22

用語をおさらい

この教材に出てきた言葉を確認しよう。

やきものの種類

☐ 陶器

土から焼くやきもの

☐ 磁器

石の粉から焼くやきもの

☐ 六古窯

中世から続く6つの産地

つくり方の言葉

☐ ろくろ

形をつくる回転台

☐ 釉薬

色やつやを出す薬

☐ 焼き締め

釉薬を使わず焼く方法

産地の名前

☐ 有田焼

佐賀県の磁器

☐ 備前焼

岡山県の焼き締め

☐ 萩焼

山口県の茶の湯の器

大切にすること

☐ 金継ぎ

割れを直して使う技術

☐ 手びねり

手で形をつくる方法

☐ 絵つけ

模様をえがく工程

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。知っている言葉が増えると、器を選ぶときの楽しみも増えます。

書いて覚えよう

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 産地と特徴を線でむすぼう

- | | | |
|-----|---|-----------------|
| 有田焼 | ● | ア. 釉薬を使わない焼き締め |
| 備前焼 | ● | イ. 様式が多く日常づかい |
| 信楽焼 | ● | ウ. 白磁に色あざやかな絵つけ |
| 萩焼 | ● | エ. たぬきの置物で知られる |
| 美濃焼 | ● | オ. 茶の湯で愛される器 |

2. 土から焼くやきものと、石の粉から焼くやきものをそれぞれ書こう

1. _____
2. _____

3. 形をつくる道具と、色を出す薬をそれぞれ書こう

1. _____
2. _____

書いて覚えよう

書いて覚えよう

家族や友だちに話してみよう

学んだことを、身近な人に伝えてみよう。

紹介する産地

特徴

おすすめポイント

聞いてほしい人

Ken の例

紹介する産地 信楽焼／特徴 あたたかみのある焼き締め／おすすめポイント たぬきの置物がかわいい／聞いてほしい人 家族

ポイント

- 言葉で説明すると、自分の理解も深まります。

書いて覚えよう

ディス イズ ジャパニーズ ポタリー
これは日本のやきものです。

イットイズメイドオブクレイ
これは土からつくられています。



信楽焼だよ。土に鉄分が入っているから、こういう色になるんだ。

1. 自分の好きなやきものを、英語で1文紹介してみよう。

もっと知りたい人へ

陶磁器の世界を、もっと広げていこう。

もっと知りたい人へ

美術館で

地域の陶磁器美術館を訪ねる

体験で

陶芸教室で実際につくってみる

本で

産地ごとの図鑑を読む

次に学べること

漆器

漆をぬった器の世界

染め物・織物

布をいろどる技術

木工・竹細工

木や竹でつくる道具

ポイント

- この教材の次は「漆器」。同じ日本の伝統的な工芸として、あわせて学ぶと理解が深まります。

書いて覚えよう

陶磁器チャレンジ

教室の外でも、陶磁器はすぐに楽しめます。

さがそう

家の中にある**陶磁器**を見つける

さわろう

陶器と**磁器**のちがいをさわって確かめる

伝えよう

好きなやきものを**家族**に紹介する

こたえ

L28 有田焼→ウ 備前焼→ア 信楽焼→エ 萩焼→オ 美濃焼→イ 2. 陶器 / 磁器 3. ろくろ / 釉薬

L33 (例) 陶磁器は、土や石の粉を焼き固めてつくるうつわのこと。

書いて覚えよう

陶磁器 (Season 5 | No.41)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。